

官報報告

宗

四十九三

立案 大正十年七月一日

決裁 大正 年 月 日

宗秩寮總裁



宮内事務官



大臣

次官



隆平大將本所府令之特号敍位
件

十五

支

完

宮内省

大正十年七月一日
臺帳記入七月十一日官報報告濟

X (九大)

裏面白紙



陸軍大將本郷房太郎特旨叙位ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正十年六月二十九日

内閣總理大臣原敬

内

閣

陸位 第一七五號

起 案 十年六月九日

裁可 十年七月一日

施行 年月日

内閣總理大臣

内閣書記官長

内閣書記官

内閣書記官

陸軍大將正三位勲二等功三級本郷房太郎
別紙陸軍大臣奏請ノ通功績顯著ナル
者ニ付特旨叙位ノ件上奏相成然ル
ハシ

内閣

陸軍大將正三位勲二等功三級本郷房太郎
特旨ヲ以テ位一級被進

正三位勲一等功三級本郷房太郎
叙從二位

陸軍大將正三位勲一等功三級本郷房太郎

右ハ別紙履歷書、通明治十二年二月陸軍少尉任官以來
在職實ニ四十有餘年其ノ間陸軍省軍務局課
員、陸軍省副官、同人事務局長、教育總監部本
部長、陸軍次官、師團長、青島守備軍司令官、
軍事參議官、特命檢閱使等、要職ニ歷任シ
終始一貫克ク其ノ職責ヲ盡シ殊ニ在職中ノ
大半ハ常ニ各種ノ委負、委負長ヲ兼務シ軍
制ノ調査諸教範、審査ニ盡瘁シ之ヲ改革制
定ニ與テ力アリ又前後四回ノ戰役ニ從事シ各
地ニ殊功ヲ樹テ其ノ功績偉大ナリ然ルニ今般
依願豫備役被 仰付候ニ付此際特別ノ恩召

ヲ以テ位一級ヲ進メ從二位ニ敘セラレ度
謹テ奏ス

大正十年六月二十八日

陸軍大臣 山梨半造



履歴書

陸軍大将正三位勲一等功三級

本郷房太郎

万延元年正月十四日生

明治十二年十二月二十三日

歩兵少尉

同 十三年五月三十一日

正八位

同 十八年五月十六日

歩兵中尉

同 年七月二十五日

從七位

同 二十四年九月二十四日

歩兵大尉

同 二十五年一月十二日

正七位

同 二十六年十月二十九日

瑞六等

同 二十八年六月十日

歩兵少佐

同 年六月十一日

留守第四師團參謀長

同 年十月十五日

從六位

陸軍

明治二十九年五月五日

旭五等

同 年五月十一日

軍務局課員

同 三十二年九月十二日

歩兵中佐

同 年十月二十日

正六位

同 三十三年四月六日

士官學校教官兼生徒隊長

同 三十五年五月十五日

歩兵第四十二聯隊長

同 年十月十五日

歩兵大佐

同 三十六年二月二十日

從五位

同 年五月十六日

瑞四等

自同三十七年四月十九日

三十七年戦役二挺軍

至同 年十月十日

少將

同 三十八年七月十八日

人事局長

同 年九月五日

正五位

同 年九月六日

正五位

同三十九年四月一日 旭二等功三級

同四十二年二月二十二日 歐洲へ差遣

同 年九月三日 教育總監部本部長

同 年十一月三十日 帰朝

同四十二年九月三十日 従四位

同四十五年四月十二日 中将

大正二年五月七日 陸軍次官

同 三年四月十七日 第十七師團長

同 年四月三十日 正四位

自同三年八月十六日 三年戦役勤務従事

至同 年九月十七日 瑞一等

同 五年八月十八日 第一師團長

同 六年五月三十一日 従三位

陸軍

大正六年八月六日 青島守備軍司令官

同 七年七月二日 大将

同 年十月十日 軍事参議官

同 年十月二十八日 旭日大綬章

自同七年十月十日 戦役勤務従事

至同八年十一月三十日 第三特命検閲使

同 八年四月二十二日 正三位

同 九年六月十日 第四特命検閲使

同 十年一月二十九日 豫備役

同 年六月二十五日

六四一

本郷大將特旨叙位ニ関スル件

通牒

大正十年六月二十八日

陸軍省人事局長竹上常三郎

内閣書記官長高橋光威殿



首題ノ件ニ関シ別紙ノ通進達相成候處右ハ今
回ノ轉役迄ノ功績ニ對スル叙位ハ本叙位ヲ以テ
切將未更ニ特別ノ功績無之ニ於テハ重テ叙位ノ
詮議ヲ為ササルコトニ内定セラレ候間此際特ニ叙位

陸軍

相成候様取計相成度依命及通牒候也

位號六四〇號

特旨叙位、件進達

大正十年六月二十八日

陸軍大臣山梨半造

内閣總理大臣原敬殿



一陸軍大將本郷房太郎特旨叙位、件

右進達又

224



裏面白紙

陸軍